

学力向上に効果のある取組事例

大分大学教育学部附属小学校

⑰校内研修などによる授業改善

取組の具体

1 全ての授業の土台となる学級経営の徹底

○学級に受容的な雰囲気や聴き合う風土が構築され、児童が安心して授業に臨めるよう学級経営（フリートーク、褒め言葉のシャワー、価値語、成長ノート）を校内研修に位置づけ学校全体で取り組んでいる。

2 学級経営の土台の上に、組織的な授業改善の取組を構築する

○学校全体で取り組む学級経営を土台に、校内研修ともリンクさせながら授業研究を行っている。校内研修では、年間 20 本以上の授業研究会の後に事後研を行ったり、月に 1 度の外国語スキルアップ研修や ICT 活用研修を行ったりして教員全体の指導力向上につなげている。

○新大分スタンダードの要素を含めた「授業観察シート」（※参考資料参照）を用いながら、年間一人 3 回以上、指導教諭等による授業観察を行い、その都度指導（事後研）を行っている。また、授業の結果を数値化し、目標管理シートにも反映している。

3 資質・能力の育成を、文部科学省や国立教育政策研究所の資料等から読み解き授業にいかす

○学習指導要領に基づき、付けたい力（資質・能力）を明確にした授業を日常的に行っている。

○文部科学省作成の nextchannel や国立教育政策研究所作成の「全国学力・学習状況調査の結果を踏まえ授業アイデア例」を参照しながら、授業改善に取り組んでいる。

○内容ベースでなく、資質・能力ベースで編成したカリキュラムをもとに授業を展開している。年間通してその見直し（カリキュラム・マネジメント）を行い、教科横断的に指導事項を関連させて効率よく指導している。また、単元を通して付けるべき資質・能力や学習内容を捉えて授業を進めている。

4 全校で取り組んでいる「外国語」「総合」の知見を、他教科にいかす

○外国語科や外国語活動、総合的な学習の時間など、目的意識や相手意識を明確にした単元構想を確実にしている。総合的な学習の時間における探究サイクルを、各教科の単元構想に活用している。

5 「新大分スタンダード」の本質を授業に落とし込む

○生徒指導の三機能や問題解決的な展開の授業、板書の構造化など、「新大分スタンダード」に基づいた授業を徹底している。

○式や答えのみではなく、児童が絵や図で説明したり、理由を付け加えながら説明したりする指導を大切にしている。

○自分の考えだけでなく、友達の考えを説明する場（対話的学び）を設けている。

○国語で出題されるような話し合いの学習を、各教科だけでなく、特別活動・総合的な学習の時間において日常的に取り組んでいる。

【参考資料】授業観察シート

R4 研究テーマ 知識・技能を活用し、熟考する子どもの育成 ～1人1台端末の活用を通して～		表面	
大分大学教育学部附属小学校 授業観察シート			
令和4年4月改訂			
日時	授業者	教科等	指導教諭
新大分ス	生三機能	評価項目	評価の観点例
評価規準	学習指導要領を正しく理解し、反映している。	・ 評価規準は学習指導要領を踏まえているか。 ・ 具体的な子どもの姿で評価規準を設定しているか。	学びや振り返り
めあてと振り返り	指導と評価の一体化が図られている。	・ 授業のねらいに評価規準と有効な手立てを反映させているか。 ・ 評価方法や評価箇所は示しているか。 ・ 本時のねらいは達成できたか。	
問題解決的な展開	問題解決的な展開である。	・ 学習の課題は単元全体を見通しており、日常生活や既習事項との関連など子どもの学ぶ意欲を引き出すものであるか。 ・ 適度な困難さや必然性があり、達成感や成就感を得られる展開であるか。	
導入	めあてが明確に示されている。	・ めあては子どもと共有されており、見れば本時に何をやるかが分かるか。 ・ 必然性や解決に向けての見通し、視点、手立て、条件等が具体的であるか。	
展開	自己存在 自己決定 自己表現	子どもの主体的な学びや思考の流れを保障する質の高い課題や発問である。	・ 子どもの思考する時間を確保しているか。 ・ 課題や発問は焦点化されており、本時のねらいに迫るものであるか。 ・ 教師がしよべりすぎでないか。 ・ 子どもの困りや気づきなどの思考の流れを生かしたり関連付けたりしているか。
	板書の構造化	子どもの論理的な思考や考えを深めるために適した板書やワークシートである。	・ 論理的に思考できるように比較や関係付け等の工夫をしているか。 ・ 子どもの思考の流れに沿った板書や板書の工夫をしているか。 ・ ICTやホワイトボード、掲示物等の教材・教具を効果的に活用しているか。
	きめ細かな指導	子どもの習熟の程度に応じて、的確な支援をしている。	・ 習熟の程度を掴むための工夫をしているか。 ・ C評価の子どもを中心に子どもの思考や困りなどを適切に予測、具体的な支援をしているか。
	共感的人間関係	協働的な学びを通して、多様性を尊重しながら、課題を解決できるような場を設定している。	・ お互いの意見を聞こうとする場や信頼関係を築いているか。 ・ 自分の意見を言いたくなる工夫や仕掛けをしているか。 ・ 反対意見や批判的な意見も言えるような場や信頼関係を築いているか。 ・ ペア学習やグループ学習の目的や内容は適切か。
終末	めあてと振り返り	自己存在 本時の振り返りの視点がねらいに対して適切である。	・ 振り返りは習得した学びを振り返ったり次時への学びを意識した上でできる内容か。 ・ 振り返りの中で比較や関連付けを意識できるような視点を明確にしているか。 ・ 学びに向かう力を意識した学習内容や態度などに対する価値付けをしているか。
その他		・ 他教科との関連や教科で使うべき言葉など意識した教材研究をしているか。 ・ 学習過程における時間配分は適当か。 ・ 教師の動線や声かけ等は意図的か。 ・ 一人一台端末の使用が効果的であったか。	
評価	評価区分	評価平均点	自身の学び・振り返り等
4	十分満足できる		
3	満足できる		
2	標準である		
1	やや不十分である		
0	不十分である		
1・2年目2.7以上 3年目以上3以上			指導教諭より

裏面

めあて 【改善案】
自分の好きな漢字について、Kチューバーの録画を見て話し方を確認したり、Kチューバーになったつもりで聞き役の友だちと何度も練習をしたりして、相手に伝わるように工夫しながら、学年・学級の友だちに漢字画数クイズとして紹介する。

板書【改善案】

- ①
- ②
- ③